

B チャレ（提案公募型協働事業）【令和3年度】報告書

提出日	令和4年2月28日	記入者	亀山 恒夫
団体名	さきちゃんち運営委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 任意団体 <input type="checkbox"/> NPO 法人 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> その他( )		
事業名	みんながつながる「ワークスペースさきちゃんち」		
協働団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文京区生活福祉課</li> <li>● 文京区社会福祉協議会</li> <li>● 文京区民生委員・児童委員協議会</li> <li>● 茗荷谷クラブ（公益社団法人青少年健康センター）</li> <li>● 特定非営利活動法人サンカクシャ</li> <li>● 文京区ひきこもり家族会</li> </ul>		
自団体 および 協働団体 の 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文京区生活福祉課：連携、イベント等による活動周知協力など</li> <li>● 文京区社会福祉協議会：関係団体・機関との仲介、活動支援・助言</li> <li>● 文京区民生委員・児童委員協議会（以下「民生児童委員」）：講座、ひろば・サロン、チャレンジ・プログラムへの参加・協力</li> <li>● 茗荷谷クラブ（公益社団法人青少年健康センター）（以下「茗荷谷クラブ」）：専門的助言、講師派遣、当事者の仲介</li> <li>● 特定非営利活動法人サンカクシャ（以下「サンカクシャ」）：勉強会の開催等、活動への参加、協力、連携</li> <li>● 文京区ひきこもり家族会（以下「家族会」）：ひろば・サロン、イベント等への参加、協力、当事者の仲介</li> <li>● さきちゃんち運営委員会：事業企画・運営管理</li> </ul>		
担当者名	八木 晶子	役職等	代表
部門 (1か2 いずれか ○)	1 課題解決部門(該当の場合、いずれかの番号に○) (1) 幅広い年代を対象に性の多様性への理解を促す活動 (2) 地域コミュニティの継続的な運営をIT等でサポートする活動 (3) ひきこもり当事者の中間的就労の場を拡大するための活動 (4) 男性の高齢者の継続的な参加につながる地域活動 (5) オーラルフレイル予防に気軽に主体的に取り組める地域の仕組みづくりを行う活動 (6) 中学校卒業後の不登校等の孤立状態に対応できるボランティアを育成するための活動 (7) 外国にルーツがある児童・生徒についての生活や学習支援活動 (8) その他、団体の専門性を生かしたテーマで提案された取り組み  2 地域活性化部門		

さきちゃんち運営委員会では、小学生の居場所と子どもの「やりたい」に寄り添う場として4年間「なにしょっかクラブ」の活動に取り組み、年間延べ1,000人程度の児童が利用した。この間に小学生が中学校に進学し、深夜遅くまで一人で過ごす子、学校に通うのが難しい子、学校や家庭で課題を抱えている子など、将来ひきこもりや社会的孤立を招きかねないケースにも、地域の大人として関わり、学校と異なる居場所を提供したり、支援団体に繋いだりしてきた。

子どもとの関わりの中から、実はその保護者も孤立していたり、困難や悩みを抱えていたというケースにもつながった。専門家ではない、同じ保護者や住民といったフラットな関係性でのつながりだからこそ、必要な情報を届けやすい、長期的な見守りや関わりができるなど、地域の住民だからこそ担える大事な役割もあるのではないかと考えると共に、子どもでも大人でも社会との接点を持つことの大切さを実感している。

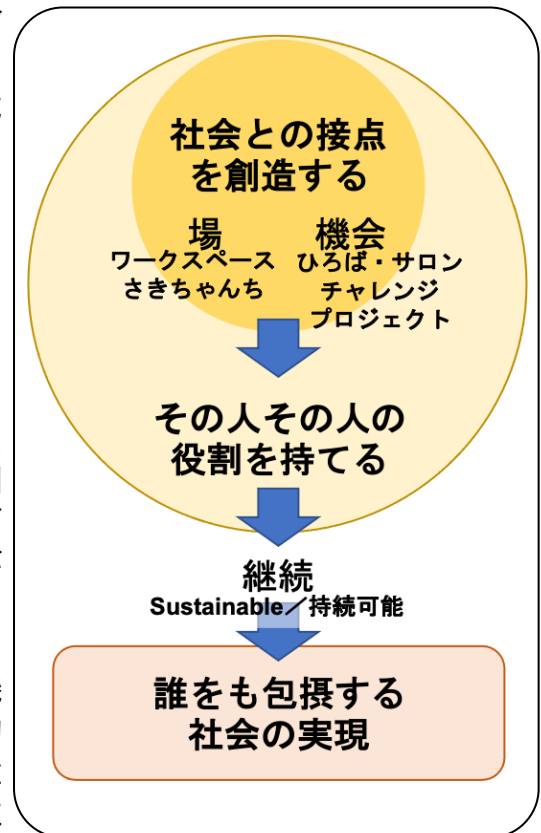
文京区内の15~64歳のひきこもり者は推計で約2,300人（内閣府平成27年度及び平成30年度の生活状況に関する調査によって導き出されたひきこもり者の出現率を、令和2年12月の文京区住民基本台帳の該当人口にあてはめ推計）。その実態は掴みきれていないが、地域福祉コーディネーターや民生児童委員等の活動などから、人知れず抱え込んでいる家庭が一定数以上あるものと思われる。ひきこもり状態が長引くことは本人、家族にとって大きな負担となる。

早い段階で社会との接点をつくり、包摂されることが望まれる。そのためにはひきこもりの実態と課題、対処方法に関する知識と理解を、地域の多くの人々で共有し、協力し合える関係性を生み出す／紡ぎ出すことが必要と考える。

さきちゃんちでは困難を抱える人と地域の人々がゆるやかな関わりで協力し合えるフラットな関係性を紡ぎ出し、活動を展開してきた。地域においてこのような関係性を保ち続けることは、利用する親子や子どもが成長していく中で、社会的孤立を改善、予防していく地域住民ならではの可能性を示すものとする。

ここでは、中間的就労を「社会との接点をもてる場や機会に、その人その人の役割をもちながら関わり続けること」と位置づける。このチャレンジでは、地域の住民が社会との接点として「ワークスペースさきちゃんち」の場を整え、「ひろば・サロン」「チャレンジ・プログラム」などの機会を実践することで、ひきこもり・社会的孤立の解消と予防を広め、人をその人が置かれている環境や状況で線引きしない、誰をも包摂する社会の実現を目的に取り組む。

目的  
地域のどんな課題を解決したいかを明記  
提案時と再掲でも可



本事業では上記目的の実現を図るため、初年度は以下の取り組みを行った。

**1. 地域で社会的孤立に関わる課題を知る・考える・伝える**

事業に取り組むにあたっては、ひきこもり・社会的孤立の状況や課題、孤立している人との対話・関わり方、地域における社会との接点、社会において役割を持つこと等について、事業に関わる人が知り、考えることで理解者を増やし、地域のひきこもり・社会的孤立に対する受容を広めることがまずは必要と考える。そこで当事者、関係者、地域の人がひきこもり・社会的孤立について知る・考える機会を設け、さらに伝えることで広めていく取り組みを実施する。

**① 勉強会及び情報発信に活用する情報の収集**

**【類似事例視察】**

- 5/27 港南台タウンカフェ（横浜市港南台）、こまちぷらす（横浜市戸塚）
- 6/10 ルーラルコーヒー（文京区向丘）、青猫書房（北区）、西日暮里ブックアパートメント（荒川区）
- 6/23 我楽田工房（文京区関口）、フリースクール・ジャパンフレネ（豊島区）
- 9/2 喫茶ランドリー（江東区）
- 12/16, 23, 27 Re:なでしこ元町（文京区本郷）

**【文京区ひきこもり連絡会への参加】**

- 5/7、（6/10 跡見女子学園大学板東先生訪問）、7/16、10/15、1/7、1/21：計5回

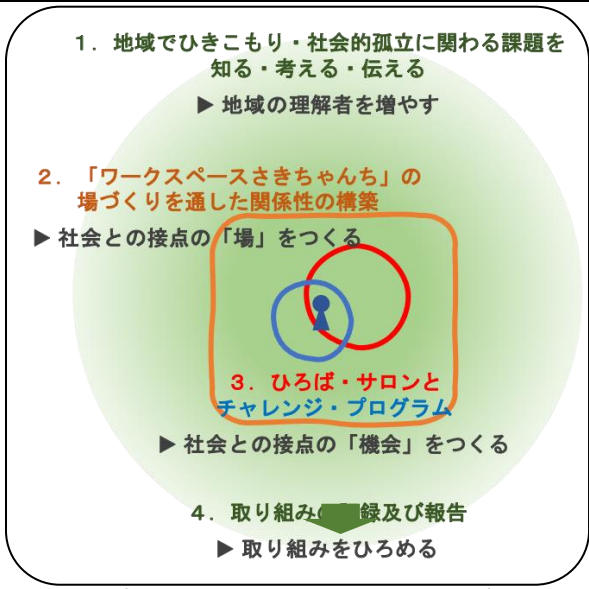
**【文京区ひきこもり家族会（オブザーバー参加）】**

- 10/2、11/6、12/4、1/16：計4回
- そのほか6/23 不登校親の会にオブザーバー参加

**【その他（講演会等への参加）】**

- 5/28～7/16 こまちぷらす居場所づくり学びあい講座（全5回、こまちぷらすは類似事例視察先）
- 10/15 オンライン講座「なんか通ってしまう、福祉でも、支援でもない居場所「みやの森カフェ」のひみつ」
- 10/19 講演会・シンポジウム講演会・シンポジウム「ひきこもり支援の必要性～多様な生き方を地域で支援する～」
- 10/23 オンライン研修会「ひきこもりに係る支援者等育成研修等事業 支援者向け研修家族支援」
- 12/28 「暮らしの保健室」主催の「第120回 暮らしの保健室勉強会」
- 1/29 「本間正人先生に学ぶ！子どもの話の聞き方観察の仕方」
- 2/20 文京区助産師会と「まちの保健室で何ができるか」勉強会開催

**② 勉強会の開催**



事業  
内容

【文京こどもを支えるプロジェクト・勉強会】サンカクシャと共同開催

- 5/28 「地域における子ども若者の居場所作りを考える ～行政や地域との連携のコツ～」中塚史行氏（教育サポートセンターNIRE、子ども若者応援ネットワーク品川）
- 7/25 「生きづらさを感じる人に、まちの人ができること ～心理専門職の視点から～」倉光洋平氏（茗荷谷クラブ）
- 9/1 倉光氏（茗荷谷クラブ）、サンカクシャ、特定非営利活動法人カタリバ（以下「カタリバ」）、さきちゃんちによる合同勉強会を開催
- 10/7 勉強会「居場所の持つ力 困難な時期を共に取り超えるために」西野博之氏（認定NPO法人フリースペースたまりば理事長）を開催
- 12/17 倉光氏（茗荷谷クラブ）、サンカクシャ、カタリバ、さきちゃんちによる合同勉強会を開催
- 2/19 対話に関する勉強会（オープンダイアログ読書会）の打合せを実施
- 2/27 「プログラミングをやってみることで起きる若者たちの変化」平井大輝氏（NPO法人GLACK理事長）

【文京区生活福祉課（ひきこもり支援センター）との協働】

- 6/27 「ひきこもりダイアログ講座 ～ひきこもりへの対話的アプローチ～」斎藤環氏の講演会を上映（6/19 文京区主催の録画）
- 3/6 「なぜひきこもりは長期化するのか？家族のできることを考えてみる」白石弘巳氏（埼玉県済生会なでしこメンタルクリニック院長）の講演会を上映（2/23「文京区ひきこもり等自立支援事業～STEP～講演会」の録画）

③ 情報発信

- さきちゃんちのサイトに「ワークスペースさきちゃんち」の固定ページを作成。取り組みを紹介。
- さきちゃんちのサイトに「文京こどもを支えるプロジェクト」の固定ページを作成。勉強会に関する案内及び活動を紹介。
- Instagram、Facebook、Twitter を連携させ勉強会・イベント等の情報を発信。
- LINE のオープンチャットを作成し勉強会・イベント等の情報を発信。

2. 「ワークスペースさきちゃんち」の場づくりを通じた関係性の構築

理解者を増やす取り組みとともに、ひきこもり・社会的孤立状態にある人にとって（も）社会との接点となる「場」や「機会」を設けていくことが必要と考える。このうち社会との接点を創造する「場」となる「ワークスペースさきちゃんち」の場づくりに、準備段階から当事者・関係者に関わってもらうことにより、自分たちの場所としての意識を醸成していく機会となる。そこでDIYで「チャレンジ・プログラム」を行う「場」をともに形づくることにより、当事者に関わる多様な人々との接点を持ち、協働で作業する機会とし、関係性を構築する。

① DIYにより「ワークスペースさきちゃんち」をともに作りあげる

- 4/29、5/4 板床ワックスがけ（地域の方、学生、スタッフが参加）
- 7/8～7/21 壁の漆喰塗り（地域の方、学生、スタッフが参加）
- 7/24～8/4 床のペンキ塗り（地域の方、学生、スタッフが参加）
- 8/5～8/31 棚（プチギャラリー）作り（当事者の方、地域の方、学生、スタッフが参加）
- その他、イスの組立、棚の組立、道具類用の棚製作などを当事者の方、地域の方、学生、スタッフで実施。

### 3. ひろば・サロンとチャレンジ・プログラム

社会との接点となる「場」において実践する「機会」づくりは、当事者と地域をゆるやかにつなげるための重要な要素になると考える。

本事業では日常的な関係性を生み出す／紡ぎ出す機会として「ひろば・サロン」を開設する。「ひろば・サロン」は、その人のペースでその場に慣れ、楽しむことのできる機会を提供する。当事者が、関係者や勉強会参加者、地域の協力者と接点を持ち、役割を持てるようになるための日常的な環境を整える。

今年度は「ひろば・サロン」の日常性を確保するため、関係者や地域の協力者が無理なく開けるように体制等に配慮しながら進めていく。

一方、「チャレンジ・プログラム」は、ちょっとだけ覚悟を持って関わるプログラムで、ひろば・サロンでの対話や地域の人との関わりを通して、当事者が役割を見つけ、活動する機会をつくっていく。

ひろば・サロンやチャレンジ・プログラムへの関わり方は、対話などをおして当事者本人が自らの意思と希望や得意なことに、関係者や地域の協力者が寄り添い、実施・展開する。

#### ① 日常的な自然な関わり場の「ひろば・サロン」を開設・運営する

6月よりひろば・サロンを順次定期開催。

- 6/16～ 「まちの本棚」 毎週月・水 14:00～17:00
- 6/20～ 「なにしょっかクラブ」 毎月複数回（土・日）14:00～17:00
- 9/ 7～ 「Sunny' s Café サロン」 毎週火 10:00～12:00
- 9/ 9～ 「みんなの手作り空間」 毎月2回（木）15:00～17:00
- 10/16～ 「哲学カフェ@さきちゃんち」 毎月2回（金10:00～12:00・土14:00～16:00）  
2/28 現在、平均週4日開催。

#### ② 中間的就労につながるチャレンジ・プログラムの実施

- 茗荷谷クラブ、当事者やご家族の方のお話を伺いながら、やってみたいことを企画化、試行的に実施。
- 9/14 椅子と棚の組立て、棚（プチギャラリー）の棚板のニス塗り体験
- 9/25 茗荷谷クラブの利用者（当事者2名）が家族と来訪、3Dプリンターを下見。
- 9月よりプチギャラリーに茗荷谷クラブのサークル「みやうが谷倶楽部」の展示スペースを確保、展示販売を開始。展示をきっかけに地域の保育園より園児用エプロン・三角巾の依頼を受ける。
- 10/11 茗荷谷クラブの利用者（当事者1名）が来訪、3Dプリンターを試験利用。
- 11/6 家族会の有志でLINEグループ「さきちゃんちに行こう」を開設。
- 11/11 茗荷谷クラブの利用者（当事者7名）がスタッフとともにワークスペースさきちゃんちを見学。場所と雰囲気を知る機会となる。
- 11/26 家族会の提案でさきちゃんちで調理して食事会を開催。
- 12/12 プチギャラリー利用者のお申し出で、当事者及びご家族向けに「メタルエンボッシング（彫金）」のワークショップを開催。
- 12/18 クリスマスワークショップDAYに一般の方と一緒にご家族の方も参加。
- 2/26 フラワーアレンジメントのワークショップに当事者及びご家族の方が参加。
- 3/8 茗荷谷クラブの利用者（当事者2名）がスタッフとともにワークスペースさきちゃんちの椅子と棚を組立て。

	<p><b>4. 取り組みの記録及び報告</b></p> <p>ひきこもり・社会的孤立状態にある人を地域で包摂し、課題を解決していくためには継続的な取り組みと、取り組みの改善、そして他地域に同様の取り組みを広めていくことが重要となる。取り組みの改善にあたっては、参加者の意見や取り組みの記録をもとに課題をみつけ、改善策を考えるワークショップを行い、そこで得られた知見を重要なフィードバックとし、改善につなげる。また、他地域への展開にあたっては、ここでの知見や試行錯誤の結果うまくいった事例記録などが参考となると考えられる。そういったものを蓄積していき、学び合う機会を拡げていくことにも力を入れていきたい。</p> <p>このため、1年間の基本的な活動記録を作成する。アウトプットは他の居場所や関連団体などに届け、活動の展開や、他団体との連携、専門支援とのつながりをもつための機会づくりに役立てる。</p> <p>① 収集した資料、類似・先進事例の資料の整理、視察記録の作成      ② 勉強会の開催記録の作成      ③ 環境整備及びチャレンジ・プログラム等の活動記録の作成</p>
<p>協働団体 or 利用者 の声</p>	<p>【文京区生活福祉課（ひきこもり支援センター）深田恵理子】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ひきこもり当事者や家族の方が、「ワークスペースさきちゃんち」を利用し、地域の方とつながり、楽しむことのできる体験の場を持てたことや、人と関わることで勇気づけられる感覚が得られることができたことは、何より素晴らしいことだと思います。</li> <li>● 区が実施する事業（講演会など）に参加していただき、さらに家族会の方、地域の方々に広める取組をしていただくこともできました。また、コロナ禍で事業の参加方法がオンラインに変更されることも出てくる中、ワークスペースさきちゃんちの場を使用して、講演会の上映を行い、地域の方々にひきこもりの方についての理解を広げる取組を行うこともできました。今後も継続して実施してほしいです。</li> <li>● コロナ禍ということもあり、ひきこもり当事者を支えていた家族の収入が落ち込むケースが出てきています。地域の中の困りごと等から、仕事を切出し、ひきこもり当事者の方が収入を得られるような活動の取組が開始されていますが、その取組を次年度も継続し、広げてほしいです。</li> <li>● 今年度1年目の「ワークスペースさきちゃんち」の活動内容を広報し、区内にひきこもり当事者や家族のことを理解し、支えあうことのできる地域団体が広がる取組を今後行ってほしいです。</li> </ul> <p>【利用者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ひろば・サロンの利用者（当事者）：自分の本音に向き合う　そして語るそれを否定されず聞いて貰えるのは、自分が解放されて行くようで、肩の力が抜け、充実感を感じられます</li> <li>● メタルエンボッシング・ワークショップに参加した利用者（ご家族）：金属をどう扱うのかドキドキでした。上坂先生は丁寧に教えてくださり私でも、簡単、楽しい♥と思いながら素敵な作品を完成させることができました。</li> <li>● フラワーアレンジメント・ワークショップに参加した利用者（ご家族）：今回、フラワーアレンジメントに参加させてもらいました。先生から丁寧に指導していただき、初めてのアレンジメントでも、のびのびと楽しく作れてとても癒されました。私たちが利用しやすいように、色々なご配慮をスタッフの方々がいつもしてくれて感謝しています。ありがとうございました。私たちが利用しやすいように、色々なご配慮をスタッフの方々がいつもして</li> </ul>

	<p>くれて感謝しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用者（ご家族）：さきちゃんちを利用して、親子共々、つながりができて、心強く、嬉しいです。同じような立場のママ友ができて、家族会とはまた違うつながりで、一緒に、ワークショップなど、企画したりするのが、とても楽しいです。</li> <li>● 利用者（ご家族）：なかなか悩みを人には打ち明けられず、自分だけで背負いがちですが、1人ではないんだ、と、力をもらえています。</li> <li>● 利用者（ご家族）：たくさんの経験を親子でさせて頂けてほんとに嬉しく思っています。</li> <li>● 利用者（ご家族）：ご縁があって、皆さんとご一緒できて、嬉しいです。 😊 なにか、お役に立てることがあれば、お手伝いします。</li> <li>● 利用者（ご家族）：（ワークスペースさきちゃんちで）息子とスタッフさんがやりとりしている姿に感動しました。</li> </ul>
協働による効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文京区生活福祉課（ひきこもり支援センター）が実施したオンラインイベントの内容を、後日ワークスペースさきちゃんちで上映会として実施できた。</li> <li>● 文京区生活福祉課、茗荷谷クラブを通じて、文京区ひきこもり家族会や茗荷谷クラブの利用者（当事者）とつながることができた。</li> <li>● サンカクシャとの連携により、幅広いテーマの勉強会を開催することができた。また、新たなつながりや合同勉強会（茗荷谷クラブ、サンカクシャ、B-lab（カタリバ））が生まれた。</li> <li>● 事業を実施しながらコミュニケーションを重ねていくことで、中間的就労に至るまでに、どれだけのステップがあるか・必要かを、担当課と一緒に確認することができた。</li> <li>● 当事者やご家族の方とのつながりができたことによって、ワークスペースさきちゃんちに関心を持っていただき、ひろば・サロンやイベントに参加していただくことができた。</li> <li>● スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、茗荷谷クラブ、サンカクシャとのつながりから、共通のケースについて相談することができた。</li> </ul>
事業成果および今後の活動予定	<p>■事業成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 類似の先進事例の視察（9箇所）、文京区ひきこもり連絡会（5回）、関係する講演会等（7回）、文京区ひきこもり家族会（4回）への参加、そして文京区生活福祉課（ひきこもり支援センター）との協働による上映会を含め勉強会等の開催をとおして、不登校やひきこもりの方など社会的に孤立している方との関わり方について学び、経験を重ねる機会を得ることができた。</li> <li>● 不登校・ひきこもりの方など社会的に孤立している方は、「たまたま困難な状況にあるまともな人」であり、社会的に孤立している状況からの出口とは、「自分自身の状況を肯定的に受け入れ、主体的にふるまえるようになること」であり、目標は「就労・就学」ではなく、本人が「元気になること」であることを理解することができた。</li> <li>● そのためにも、当事者やご家族の困っていること、興味・関心に寄り添い、関係を紡いでいくことが重要であり、さらに関係する専門機関や団体等とのフラットなつながりをつくり、連携し繋いでいく必要がある。</li> <li>● そのことが当事者の地域や社会との関わりにつながり、将来の就労等に結びつく可能性を生み出す。</li> <li>● チャレンジ・プログラムの取り組みにより約10名の当事者とご家族との関わりができ、小さいが新しい試みに結びついた。今後、さらに多様なつながりや機会を得られるように、ワークスペースさきちゃんちが様々な機関・団</li> </ul>

体と連携できるつながりを持つようにするとともに、文京区や地域をはじめ、様々な機関や団体との協働により、当事者やご家族とともに進みたい。

#### ■今後の活動予定

次年度（令和4年度）は、今年度成果を上げた取り組みを継続し、ワークスペースさきちゃんちという場と、文京区、文京区社会福祉協議会、茗荷谷クラブ、サンカクシャ、その他新たに関わりを持つことができた団体等との連携で、当事者及びご家族などの関係者とともに活動できること、やってみたいことを実現する機会を増やし、継続していく。そのために、以下の目的で活動する。

1. 地域に開かれたひろば／サロンを継続的に開き、当事者や関係者がいつでもアクセスできるようにする
2. 社会的孤立に関わる地域の理解者・協力者を増やす
3. 当事者や関係者が活動できる、役割を持てる状況を用意する
4. 当事者・関係者、地域の理解者・居場所、専門機関、行政機関等がフラットな関係で相互に連携できる仕組みを構築する

※別紙1：事業スケジュール 報告

※別紙2：収支決算報告

※別紙3：関係者マップ 報告（提案時の内容と比較できる状態）

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子分かる写真のデータ（10枚以内）



別紙1:事業スケジュール 報告

Bチャレ(提案公募型協働事業)【令和3年度】

作成日:令和4年2月28日

団体名: さきちゃんち運営委員会

実施内容	令和3年					令和4年						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
文京区・フミコムとの打合せ	●14		●10 ●30:企業ネットワーク			●30:中間報告会				●17	●16:企業ネットワーク	
1-1 勉強会及び情報発信に活用する情報の収集(視察)		●27	●10,23			●2			●16,23,27			
1-1 勉強会及び情報発信に活用する情報の収集(文京区ひきこもり連絡会に参加)	●7		●10:跡見 ●16				●15			●7 ●21		
1-1 勉強会及び情報発信に活用する情報の収集(家族会等への参加(オブザーバー))			●23:不登校親の会				●2:ひきこ ●6:ひきこ ●4:ひきこ ●16:ひきこもり家族会					
1-1 勉強会及び情報発信に活用する情報の収集(講演会等への参加)			●28:講座参加(~7/16、計5回)				●1 ●19,23:講演・研修会 ●28:勉強 ●29:研 ●20:助産師会と検討会					
1-2 勉強会の開催(勉強会・上映会の開催)		●28		●25	●1:合同 ●7			●17:合同		●19 ●27		
1-2 勉強会の開催(文京区ひきこもり支援センター(生活福祉課)との協働)			●27:上映会									●6:上映会
1-3 情報発信	勉強会、上映会等の情報発信/当事者・家族会等への個別の情報提供											
2-1 DIYにより「ワークスペースさきちゃんち」をともにつくりあげる	ワックス塗り、壁漆喰塗り、床ペンキ塗り、棚づくり等DIY					キッチン等						
3-1 日常的な自然な関わりの場「ひろば・サロン」を開設・運営する	ひろば・サロンの開設・運営(2022.2.28現在 週4.0日開催)											
3-2 中間的就労につながるチャレンジ・プログラムの実施	(※ ○:見学のみ)					●14 ○25 ●11	○11 ○25 ●12,18				●26 ●8	
同上								●26:食事会			屋号枠製作	

## 別紙2: 収支決算報告

作成日: 令和4年2月28日

## Bチャレ(提案公募型協働事業)【令和3年度】

団体名: さきちゃんち運営委員会

収入 1,001,074 円

費目	予算額	積算根拠
「Bチャレ」助成金	1,000,000 円	課題解決部門
自己資金	1,074 円	

支出 1,001,074 円

費目	予算額	積算根拠
謝金	126,264 円	①情報収集 11,000(研修費) ②視察 35,534(視察先) ③勉強会 26,600(講師) ④関わり方勉強会 25,220(講師) ⑤ひろば・サロン 27,910(講師)
人件費	55,163 円	①DIYによる環境整備 55,163(作業・管理費)
交通費	11,850 円	①情報収集 2,012(研修時) ②視察等 9,838(視察時)
委託費	185,000 円	①DIYによる環境整備 65,000(設計等) ②サイト作成料 80,000(一式) ③記録作成 40,000(一式)
材料費	582,797 円	①DIYによる環境整備 311,740(壁塗装49,973、床塗装42,347、木材一式205,440、その他13,980) ②チャレンジプログラム 271,057(金属細工体験7,750、フラワーアレンジメント体験20,000、喫茶体験92,400、布小物製作体験97,980、写真・映像撮影編集体験50,886、調理体験2,041)
印刷費	35,000 円	①記録作成 35,000(一式)
広告費	5,000 円	①勉強会等 5,000(オンライン広告費)

別紙3：関係者マップ

作成日：令和3年2月27日

Bチャレ（提案公募型協働事業）【令和3年度】

団体名： さきちゃんち運営委員会

